

1. 日時：令和2年12月21日（月）10：00～11：30

2. 場所：Web会議開催（WebEX）

3. 議事

（1）高精度測位社会プロジェクトの取組について

（2）令和元年度成果概要について

（3）今年度の取組について

（4）自治体・民間事業者の成果について

4. 議事要旨

議事(1)、(2)、(3)について事務局より説明を実施。議事(3)資料5の説明後、意見を頂いた。

・コロナの影響でこのプロジェクトを進めるのに大きな困難がある中、進めていただいていることに敬意を表したい。高精度測位の実現という大きな目標に向けて、来年度オリパラでの実験を中心に考えていると思うが、以前の想定とは大きく変わる形になる。多くの外国人の方が国内を観光するシナリオが現実的ではない。コロナ禍で「密の解消」や「人流の把握」、「人混みの検知や解消」といった面で高精度測位の需要が高まったと思う。状況の変化にはいち早く対応するのが重要だ。

・デジタル庁のデータタスクフォース、スーパーシティー、スマートシティーの推進があり高精度の屋内地図、デジタルデータの需要が高まっている。このような取組みと連携し情報交換してプロジェクトが一貫した形となるとよい。

・高精度社会は現実空間を情報空間にフルコピーするものであり、屋内空間も例外ではない。非常に重要な取組みである。

・異なる主体の中でデータの連携が必要であり、これまで標準仕様を考えて実証実験の中で物理的に事業者がいかに手を結んでいくのかを実証してきた経緯がある。スーパーシティー、スマートシティーの考え方にとっても不可欠な要素となるので連携して進めてほしい。

・屋内空間について、避難所の関係だと例えば豊洲地区などは避難所がほとんどないため、大火事等になり家に住めなくなった場合、避難所等の情報は価値のあるものになる。被災時のデータ連携は、今回の大丸有だけでなく、他の地域でも必要なので今後横展開も進めてほしい。

- ・東京、新宿、新横浜など人が多い拠点に関しては地図もでき環境が整っているが、今後横展開していくためにはどのような活動をするか。
- ・実証実験の中で事業者と話すときに、横展開するためにはどのような支援が必要なのか、知見があれば共有してほしい。
- ・三次元モデルの利活用プロジェクトを同じ国土交通省の都市局関係や、あるいは東京都でも一部実施しているが、ビーコンや屋内測位の話がまだ浸透していないと思う。いい機会なので推進してほしい。

(事務局回答)

- ・横展開については、今年度手引き作成時点に事業者等にご意見いただくプロセスにおいて、手引きの存在も十分認知していただき、利活用に向けてユーザビリティを上げるべく事業者等の意見を反映していきたい。
- ・スマートシティーの施策や地方への展開の動きがある中で、基盤となる地図については、すべてのプロジェクトで共通のものであるため、施策の中に組み込まれるとよい。
- ・高精度測位プロジェクトは情報活用推進課がやっているプロジェクトだが、国土交通省内だけでも例えばバリアフリー施策のように親和性が高い施策があるので、こうした施策の中に、高精度測位の取組みを位置づけてもらい浸透させていくことを模索したいと考えている。・オリパラについては、ご指摘されたように密の解消や人流の取組みについても視野に入れ来年度に向けて検討していきたい。

以上